



## 子宮頸がんは予防できるがんです！！

子宮頸がんは現在日本人全体で年間 15,000 人が発症し、約 3,500 人が死亡している病気です。自覚症状がなく、ゆっくりと進行するのが特徴です。特に 20～30 代にかけて子宮頸がんの発症率が上昇しています。

現在子宮頸がんはワクチンや定期検診によって防げる病気なのです。

子宮頸がんは発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によって引き起こされます。このウイルスは人から人に、主に性交等により感染し、感染が持続します。発がん性 HPV に感染すると数年から数十年かけて発症するので、10 代前半でワクチンを接種するのが効果的です。3 回のワクチン接種で発がん性 HPV の感染から長期にからだを守ることが可能なのです。

しかしこのワクチンはすでに今感染している HPV を排除したり、子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、接種後の HPV 感染を防ぐものです。

ワクチン接種だけでは完全には予防できないので、20 歳以降は定期的に検診を受けましょう。